

1 事業名等(Plan 1)

事業名	家畜人工授精事業											
所属名	農政部 畜産課 畜産振興グループ											
第七次総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	分野	4	畜産業	基本 施策	1	安定した畜産経営環境を整備する	施策	1	競争力のある生産基盤の整備
予算科目	5	2	2	畜産振興	費	52225	家畜人工授精	事業				
					費			事業				
					費			事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市家畜人工授精条例											
事業の実施主体	○ 市 市以外→											
事業の実施方法	○ 直営 指定管理 ○ 業務委託 団体等補助 その他→											

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	畜産農家(肉用牛・酪農家)	受益者数	233 人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	家畜の人工授精や授精卵移植により、家畜の改良・増殖を図り、飛騨牛のブランド力強化を推進する。		
概要	事業の実施手法、手順	家畜改良、増殖の推進を図るため、和牛、乳牛の家畜人工授精及び授精卵移植・採卵を実施する。		
概要	事業始期・終期	始期	年度から	終期
概要	今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 肉用素牛確保のため、授精卵移植頭数の増と受胎率の向上を図る。		

3 事業費の推移・結果(Do)

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
総合計画	計画額(当初)	24,000	24,000	23,460	24,000	24,000
	計画額(計画額)	24,000	24,000	23,460	24,000	24,000
事業費	予算額	23,390	24,000	23,460		
	決算・見込	23,165	23,374			
財源	国庫支出金	予算額				
		決算・見込				
	県支出金	予算額				
		決算・見込				
	地方債	予算額				
		決算・見込				
	受益者負担	予算額	11,143	11,215	11,215	
		決算・見込	9,143	8,778		
	繰入	予算額				
		決算・見込				
一般財源	予算額	12,247	12,785	12,245		
	決算・見込	14,022	14,596			
H17国勢調査 96,231 人 32,174 世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価						
コスト	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位 %	39.47	37.55		
	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位 円/人	241	243		
	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位 円/世帯	720	726		
	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位 円/人				
※ その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)						

【成果面】

活動・成果指標	活動指標	投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標	指標名	家畜人工授精実施回数	資料・出展	算出式	人工授精延頭数 / 人工授精実頭数	単位	回
	活動指標	目標値	1.6	1.6					↑
	活動指標	実績値	1.6	1.6					↑
	活動指標	達成率	0	0					↑
成果指標	成果指標	活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標	指標名	家畜授精卵移植実施回数	資料・出展	算出式	移植目標 / 移植実頭数	単位	回
	成果指標	目標値	220	220					↑
	成果指標	実績値	198	229					↑
	成果指標	達成率	0.0	0.0					↑

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)

(現状及び判定理由) 「飛騨牛」ブランドの維持・拡大を図るため、人工授精や授精卵の移植などにより優良な繁殖用雌牛確保と肥育素牛生産のため必要である

目的評価

A:非常に高い
B:高い
C:低い
D:非常に低い

A

②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)

該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

減少 1 維持 増加

(判定理由) 受胎率の向上等により経費削減に努めた。

項目

②コスト面

増加 維持 減少

③成果面

拡大 維持 減少

O

③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)

該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

拡大 1 維持 減少

(判定理由) より高品質な「飛騨牛」の改良・増頭により産地間競争に負けないブランド力の強化が図られ、農家経営が安定された。

コスト・成果ポジション

A

第1水準

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」 → I 「良い」 良好な水準を維持

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」 → II 「やや良い」 「I」の水準に向けた改善が必要

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」 → III 「普通」 「II」の水準に向けた改善が必要

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」 → IV 「やや良くない」 「III」の水準に向けた改善が必要

目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」 → V 「良くない」 「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

一次評価 主管課

I

判断の理由
受胎までの人工授精が効率よく実施されており、飛騨牛の増産が十分図られている。

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点

授精、移植の更なる受胎率の向上により、経費の削減を図ることが必要である。

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)

現状維持 ■ 改善・継続 終期設定 休止 廃止 完了

コストを抑えつつ、最大の効果をあげることが必要である

総合評価

コスト	成果	評価区分
中	中	Ⅲ

判断の理由等
「Ⅱ」以上の水準に向けた改善が必要

飛騨牛のブランド力の更なる強化を図るために本事業は重要である。しかし、人工授精件数は減っているものの、委託料は減少していないため、契約内容を見直すなど更なるコスト削減が必要である。

活動の方針

次年度の実施方針
授精卵移植等の利用により、優良飛騨牛の増頭及び肥育素牛の増産を図る。